

令和5年度 校内研究計画

1 研究主題

居心地のよさを実感し、意欲的に活動する児童の育成
～子どもも教師も幸せな学校をめざして～

2 主題設定の理由

令和3年3月に文部科学省より出された「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」において、学習指導要領に示された資質・能力の育成を進めるためには、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められるとしている。同年12月には内閣府総合科学技術・イノベーション会議から「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ〈中間まとめ〉」において『一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会』としてのSociety5.0の実現を目指しているとしている。また、発達障がいや特異な才能のある児童の困難さ、家庭環境や家庭文化の多様化や地域社会の変化などにより不登校・不登校傾向の児童は年々増加の一途をたどっている。ほかの調査では小・中学校での不登校児童生徒や暴力行為の増加していることも分かっている。そのような中で教師が自分の価値観や知識、スキルなどを見直し、異なるアプローチから検討する「学びほぐし」が求められている。

本校においても、家庭環境が整っていないため困り感を感じている児童、様々な理由で不登校・不登校傾向になったりする児童、発達障がい等で学校生活に適應することが難しく配慮を要する児童が増えてきている。また、自分の思いを伝える力や他人と関わるコミュニケーション力に弱さが見られる児童も少なくない。さらに、学習状況調査等の結果を見ると、学年によってばらつきはあるものの、全般的に学力が低い傾向にあり、学習意欲の低下も見られた。

一昨年度から「幸せな学校」を目指し、居心地の良い学級経営や全員がわかる授業、構造化された校内環境整備に取り組んできた。まだ、様々な理由で困り感を感じている児童や配慮を要する児童も少なからずいるが、少しずつ居心地よく意欲的に学校生活を送る児童が増えてきているように感じている。

そこで、本年度は教育のユニバーサルデザイン化を前提に、これまでの研究をさらに進める。困り感を感じている児童や配慮を要する児童への支援の充実を図ることは、全ての児童にとって必要なものという考えのもと、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図り、学級づくり・授業づくり・環境づくりを整えることで、児童が居心地のよさを感じ、生活、意欲的に活動する児童を育てることができると考える。また、教師自身が今までの経験や価値観にとらわれず、異なるアプローチをとる「学びほぐし」をすることで、子どもたちにとって学校が居心地のよい場所になり、幸せな学校につながるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

全ての児童が居心地のよさを実感するために、教育のユニバーサルデザイン化を前提に、安心して過ごせる「学級づくり」やみんながわかる「授業づくり」、過ごしやすい構造化された「環境づくり」の在り方を探る。

4 研究の内容

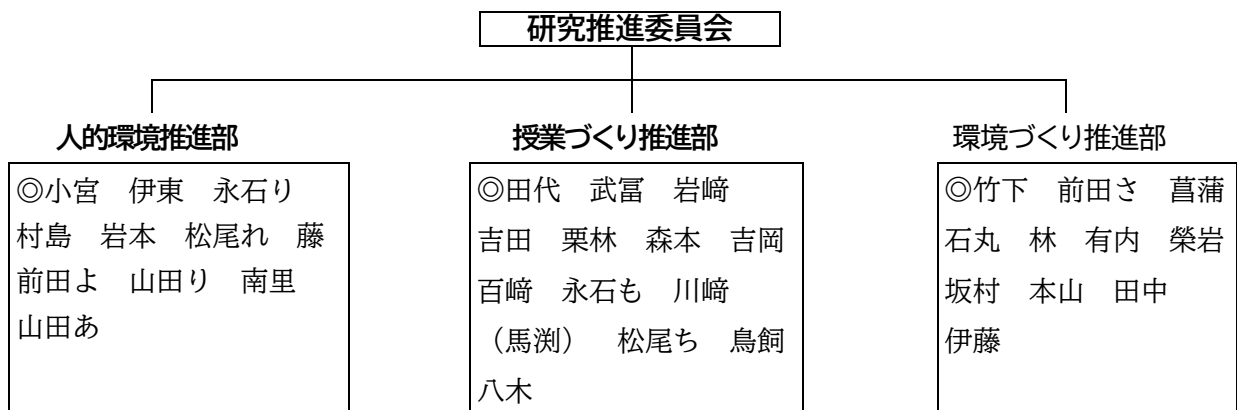
- (1) 全員授業による授業実践
- (2) 全校研及び授業研究会による共通理解
- (3) 人的環境推進部による、人的環境 UD をふまえた子ども同士が「支え合う・学び合う」クラス環境を育てるための取組の提案
- (4) 授業づくり推進部による、授業 UD をふまえた個別に特別なことをする前にまずクラスの子どもたち全体にとって「わかりやすい」授業づくりのポイントの提案
- (5) 環境づくり推進部による、環境 UD をふまえた集中できる教室環境，構造化された（わかりやすい）校内環境の提案
- (6) 教師自身が価値観や知識，スキルなどを見直し，異なるアプローチから検討する「学びほぐし」

5 研究の方法

- (1) 研究推進委員会を開き，研究の方向性を決定する。
- (2) 児童の心を育て，居心地の良い学級づくりをねらいとする日常の教育活動の充実に努める。
- (3) 研究授業や研究会をし，全員がわかる授業づくりについての研究を深める。
- (4) 過ごしやすい校内・教室環境整備に努める
- (5) 児童の実態把握に努め，変容を見ながら研究の改善を図る。

6 研究組織

(◎…部長)



7 学年部

支援学級（知）…永石も 榮岩 支援学級（情・下）…田中 前田よ 藤 南里
 支援学級（情・上）…本山 百崎 坂村 吉岡 山田り
 1年…武冨 小宮 前田さ 川崎（馬淵） 2年…伊東 菖蒲 岩崎 鳥飼
 3年…石丸 永石り 吉田 八木 4年…林 村島 田代 松尾ち
 5年…有内 岩本 栗林 山田あ 6年…竹下 森本 松尾れ 伊藤

8 研修計画

月 日			内容
4月12日（月）	研究推進委員会		研究内容・各部の検討
14日（水）		校内研 全体会	研究内容・各部の確認
28日（金）	研推		研究内容の検討
5月10日（水）		校内研 各部会	各部の活動内容の検討
6月 1日（木）	研推		
14日（水）		校内研 全校研	全校研・授業研究会
7月 6日（木）	研推		
12日（水）		校内研 全体会	1学期報告会
8月	研推		
		校内研 各部会	各部の活動
31日（木）	研推		
9月13日（水）		校内研 学年会	授業づくり研修会
10月 4日（水）	研推		
11日（水）		校内研 学年会	授業づくり研修会
11月 2日（木）	研推		
8日（水）		校内研 全校研	全校研・授業研究会
30日（木）	研推		
12月13日（水）		校内研 全体会	研究のまとめの提案 2学期報告会
1月11日（木）	研推		
17日（水）		校内研 各部会	研究のまとめ
2月 1日（木）	研推		
7日（水）		校内研 学年会	研究のまとめ
3月 1日（水）	研推		
18日（月）		校内研	次年度の校内研について